



春夏秋冬
檀木館日和

しゅもくかんびより ◆ 第三十五号



発行日: 2025年12月28日
発行: 文化のみち檀木館
指定管理者: 株式会社COSMO CONSULTANT

金色の襖

こんじきのふすま



鳳凰と青桐があしらわれた襖引手

大正末期、輸出陶磁器商・井元為三郎によって建てられた邸宅・文化のみち檀木館。

数寄屋造りのこだわりが随所に見られる和館の奥座敷(和室1)は10畳と13畳の広さで、

二間(ふたま)を仕切る襖(ふすま)は、

季節の行事や来客に合わせて空間の変化を

巧みに演出する役割を担い、大広間から、

静かに心を落ち着かせる小座敷まで、

さまざまな場面を優雅に彩りました。

竿縁(さおぶち)天井を仕切る透かし欄間(らんま)は吉祥の「鳳凰と青桐」。

襖絵は金泥(きんでい)※を用いて描かれた山水図。

細やかに引かれた金泥の線が、しっとりとした柔らかな光沢をたたえ、朝夕の光の移ろいに変化する

多彩な表情や、豪華さの中に宿る静けさが、

年月を重ねた今も独特の美をはなっています。

襖引手(写真:右)は「円丸角丸平底」。

金象嵌(きんぞうがん)細工の鳳凰と青桐で

欄間と意匠合わせされています。

※金泥とは、純金を細かくすりつぶし、水などで溶いた絵具。

金箔より粒子が細かく、日本の伝統絵画で古くから用いられてきた。

榎木館の

襖

ふすま



榎木館の和館は、洋館玄関から渡り廊下を抜けたその先にあります。初めて訪れた方は、建築当初からの、レトロなゆがみガラス越しに見える庭園や、和室に広がる畳敷きの開放感に、思わず驚かれることでしょう。現在、榎木館で一般公開されている和室は、主に奥座敷(和室1)と中間(和室2)、手前の和室(展示室2)の三部屋で、イベントや展示のための



和室1の建具まわり。用途に合わせて、赤い点線枠に4本立ての襖(表紙写真)を使う。

空間作りに合わせて襖を使います。かつての日本住宅は、和室に「つづきの間」が設けられ、襖によって空間を仕切ること、用途に応じて柔軟に部屋の形を変えることができました。襖は単なる間仕切りではなく、四季の移ろいに合わせて室内の温度を調整するための工夫としても、たいせつな役割を果たしていました。その歴史をたどると、平安時代までさかのぼり、当時の建築様式であった寝殿造に用いられた「障子」の一種が襖の起源といわれています。当時の障子は、現代の和紙貼りとは異なり、脚座のついた「屏風(びょうぶ)、衝立(ついで)障子」を意味し、空間を仕切る可動建具全般を意味しました。室町時代以降、書院造が現れてからは、畳敷き書院に竿縁(さおぶち)天井が貼られ、欄間(らんま)、鴨居(かもい)、敷居(しきい)を設けて、開閉式の襖が取付けられました。榎木館の書院造の奥座敷(和室1)・写真・上に、建具まわりなどの部材を見ることが出来ます。柔軟な室礼を支える重要な調度品であった襖は、長い歴史を経て和紙を貼った軽量の建具として改良、発展を重ねて現在の襖へと変化を遂げたのです。

東蔵の襖

東蔵(非公開)にも、建築当初のものと思われる、数々の襖が保管されています。



貫戸(すど)。通風を確保しながら、強い日射を遮る役割を持つ。何枚も保管されていることから、夏の時期に入れ替えて使用したと思われる。



渦をまく吉祥文様※の雲(瑞雲)が描かれた襖。引手は菊透縁座玉子



花菱紋が金彩で描かれた襖

※吉祥文様とは・・・「縁起の良い意味を持つ図柄」の総称で、鳳凰・龍・植物など日本で千年以上にわたって受け継がれてきた伝統文様。

ふすま紙

いろいろ

建築年数100年の間に、
はり替えをおこなった襖もあり
ますが、当初より使われて
いると思われる襖が現在も
各所に使われています。



笹の葉模様の襖紙(写真右上)、竹節の引手が特徴的な付け書院地袋のシルク製の襖(写真左上)。庭園にある茶室の水屋内の襖にもかつては同じ柄が使われていた。現在、茶室の水屋は竹節の引手のみが現存。
古くから中国で幸せのシンボルといわれた蝙蝠(こうもり)の引手が使われた和室1の違い柵戸袋(写真右下)、折れ松葉の引手がついた地袋の襖。松林が銀彩で描かれている。(写真左下)

ちょっぴり話したくなる

榿木館の

よもやま話

文化のみち榿木館の、茶室や主屋の外側に面している柱や窓枠のいたるところに、奇妙な傷跡が点々といっています。長年働いているスタッフも最近になって気付きました。誰かがんだらうと首をかしげておりました。誰かがイタズラで傷をつけたのか、何かを展示した時に風で当たったのか、木の劣化で内側からめくれてきたのか、新種のカビか、まさか宇宙人のメッセージか！真実は意外な結末で判明しました。先日、茶室の調査に来られた工務店の方から、「これは虫か小動物が柱を登った爪あとですよ。」と教えていただきました。こんな垂直の柱を登っていくとは…。都会のオアシス、文化のみち榿木館。さまざま虫や小動物にとってもオアシスだったようです。



令和7年度催し暦 (10月~11月)



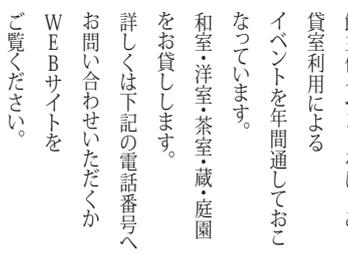
11/22・23
女将の茶会



11/3
袴で歩く文化のみち



10/3~10/13
いりやあせ伊勢型紙展へ
鳥獣戯画もあるでしょう



11/15・16
和・Wa・輪のマルシェ2025



10/18
クラシックdenight

文化のみち榿木館では、当館主催イベントをはじめ、貸室利用によるイベントを年間通しておこなっています。
詳しくは下記の電話番号へお問い合わせいただくかWEBサイトをご覧ください。